

平成 29 年度「特別支援教育に関する実践研究事業（次期学習指導要領に向けた実践研究）」
成果報告書

| | |
|-------|-----|
| 受託団体名 | 福井県 |
|-------|-----|

I 概要

1 モデル校の一覧

| 設置者 | 学校種 | 課程又は障害種 | 学校名（ふりがなを付すこと） |
|-----|--------|----------|--|
| 福井県 | 特別支援学校 | 視覚障害 | 福井県立 <small>もうがっこう</small> 盲学校 |
| 福井県 | 特別支援学校 | 聴覚障害 | 福井県立 <small>ろうがっこう</small> ろう学校 |
| 福井県 | 特別支援学校 | 肢体不自由 | 福井県立 <small>ふくいとくべつしえんがっこう</small> 福井特別支援学校 |
| 福井県 | 特別支援学校 | 病弱・肢体不自由 | 福井県立 <small>ふくいひがしとくべつしえんがっこう</small> 福井東特別支援学校 |
| 福井県 | 特別支援学校 | 知的障害 | 福井県立 <small>ふくいみなみとくべつしえんがっこう</small> 福井南特別支援学校 |
| 福井県 | 特別支援学校 | 知的障害 | 福井県立 <small>れいほくとくべつしえんがっこう</small> 嶺北特別支援学校 |
| 福井県 | 特別支援学校 | 知・肢・病 | 福井県立 <small>おくえつとくべつしえんがっこう</small> 奥越特別支援学校 |
| 福井県 | 特別支援学校 | 知・肢・病 | 福井県立 <small>なんえつとくべつしえんがっこう</small> 南越特別支援学校 |
| 福井県 | 特別支援学校 | 知・肢・病 | 福井県立 <small>れいなんひがしとくべつしえんがっこう</small> 嶺南東特別支援学校 |
| 福井県 | 特別支援学校 | 知・肢・病 | 福井県立 <small>れいなんにしとくべつしえんがっこう</small> 嶺南西特別支援学校 |

2 研究課題

地域企業等と学校が連携・協力した、生徒の職業教育・就労支援ならびに自立と社会参加に向けた小学部から高等部までの系統性ある教育課程

3 研究の概要

- (1) 本県が平成26年度から高等部生徒に実施してきた地域企業と学校が連携した職業教育・就労支援を、中学部生徒に対象を拡大し、中学部段階から生徒個々の発達段階に応じた望ましい勤労観や職業観の育成を行うとともに、P-D-C-Aサイクルによる実習評価等を基にした就労課題改善のために必要な指導を学校教育活動全体での取り組みに関する研究を行う。
- (2) 作業学習等の学習活動で培った力を検定する技能検定を、中学部段階から参加できる福井県版技能検定として創設し、学部を越えた異年齢集団の中で、下級生が上級生の働く姿や高い技能への憧れや級の取得等、個々の生徒が目的意識をもった学習活動につながる技能検定の在り方に関する研究を行う。
- (3) 各学校における上記(1)(2)教育実践研究をとおして、キャリア発達の視点を整理し、進路選択のみならず将来の生き方、自立と社会参加に向けた中学部から高等部の系統性あるキャリア教育の在り方について研究を行う。

4 研究の成果

(1) 就労応援サポーター企業を活用した職業教育・就労支援

本県では平成28年度より、企業実習や作業学習時の技術指導等、特別支援学校の職業教育・就労支援を、学校に協力くださる地域企業を「就労応援サポーター企業」として公募・登録を行っている（登録企業数203企業（平成30年3月1日現在））。作業学習時の技術指導では、4つの特別支援学校で95名の生徒が、食品加工や喫茶サービス、清掃、園芸等でサポーター企業からの専門的な技術指導を受けた。また2校で中学部・高等部合同の技術指導を実施し、10名の中学部生徒が高等部生徒と一緒に技術指導を受けた。

(2) 福井県特別支援学校技能検定

作業学習等で培った力を評価する技能検定の実施準備に取り組み、WG会での評価基準、指導書等の作成、全検定実施校による検定準備委員会でのWG会提案内容の協議、清掃作業学習実施校による評価基準を基にした校内検定の実施を行った。

① 中学部段階から参加できる技能検定

作業学習以外でも各学校取り組めるよう、初級（10級～7級）、中級（6級～4級）を各学校の校内検定で評価し、上級（3級～1級）を県の検定会で評価する。また、中学部段階からの参加により、より多くの生徒に検定の機会を増やす。

② 卒業後（就労）に活かせる検定

生徒一人一人の技術や能力に対する評価（級の認定）にとどまらず、技能が就労に活かせるよう、協力企業である福井県ビルメンテナンス協会の理解の下、上級（3級～1級）の認定は福井県教育委員会と福井県ビルメンテナンス協会の連名とした。

【平成29年度 清掃技能校内検定結果】

高等部生徒：受検者6名 中学部生徒：受検者4名

(3) 中学部段階からの系統性あるキャリア教育

平成29年度は10月以降の実践研究となり、地域企業と連携した作業学習への取組は一部の学校に偏ってしまった。実践研究2年目の平成30年度は、全てのモデル校で年度当初から実践できるよう各学校で計画・準備を進めている。このような中でも、中学部と高等部の合同作業学習を設けたモデル校もあり、実践の中からは、経験値の高い高等部生徒の姿を手本として、中学部生徒の作業や振る舞い等の行動面、「あんな風にやりたい（なりたい）」という心理面での変容が見られている。

5 課題と今後の方策

平成29年度は10月からの事業開始に伴い、就労応援サポーター企業を活用した作業学習は実施回数、実施校数ともに実施予定数を下回った。実践数は少ないものの、プロの講師からの高度な技術を学べる機会や、日頃関わる教員以外の外部講師から評価してもらうことは、生徒自身が社会貢献を実感する貴重な体験となっている。また、本事業をとおして中学部・高等部合同作業学習が実施できた。高等部生徒の姿が良い刺激となり、高等部生徒の活動を模倣したり、「あんな風に（上手に）なりたい」と向上心が中学部生徒の中に見られた。また技能検定については、評価基準および指導書の策定、特別支援学校2校による校内検定（プレ検定）の実施に留まり、本検定（県検定大会）実施までには至らなかった。全モデル校を対象とした検定実施説明会では、一部の参加校から検定の実施自体に後ろ向きな意見も聞かれた。

本事業では、学校卒業後の自立と社会参加のための中学部から高等部の系統性あるキャリア教育を、作業学習を中心に研究を進めていくが、1年目の「サポーター企業による技術指導」「中学部・

高等部の合同作業学習「中学部段階からの技能検定」の実践を全モデル校で共有するとともに、2年目の実践を全モデル校で進めるとともに、実践を通して中学部から高等部の系統性ある教育課程の編成を考えていきたい